

## 「ピシディア州のアンティオキア宣教」

2024年03月07日

パウロとその一行は、パフォスから船出してパンフィリア州のペルゲに来たが、ヨハネは一行と別れてエルサレムに帰ってしまった。パウロとバルナバはペルゲから進んで、ピシディア州のアンティオキアに到着した。そして、安息日に会堂に入って席に着いた。律法と預言者の書が朗読された後、会堂長たちが人をよこして、「兄弟たち、何か会衆のために励ましのお言葉があれば、話してください」と言わせた。そこで、パウロは立ち上がり、手で人々を制して言った。(使徒 13: 13~16a)

異邦人たちはこれを聞いて喜び、主の言葉を崇めた。そして、永遠の命を得るように定められている人は皆、信仰に入った。こうして、主の言葉はその地方全体に広まった。ところが、ユダヤ人は、神を崇める貴婦人たちや町の有力者たちを唆して、パウロとバルナバを迫害させ、その地方から二人を追い出した。それで、二人は彼らに対して足の埃を払い落とし、イコニオンに行った。他方、弟子たちは喜びと聖霊に満たされていた。(使徒 13: 48~52)

バルナバとパウロとマルコ・ヨハネの三人はキプロス島のパフォスから船出して、パンフェリア州のペルゲに来た。ペルゲはキプロス島の対岸、現在のトルコの南に位置する港町である。この時、ヨハネは二人に別れ、エルサレムに帰ってしまった。彼は宣教の厳しさに耐えられなかったのであろうか。マザコンの彼は、優しい母マリアが恋しくて、母のいるエルサレムに帰ってしまったのであろうか。二人は宣教を続けようと、ペルゲから進んで、ピシディア州のアンテオキアに到着した。そして、安息日になったので、ユダヤ人の会堂に入って席に着いた。律法と預言者の書が朗読された後、会堂長たちが人をよこして、二人に、「兄弟たち、何か会衆のために励ましの言葉があれば、話してください」と促した。礼拝では、会衆の自由な勧めが語られるが、新参者の二人に話す機会を提供したのである。そこで、パウロは立ち上がり、手で人々を制して、語り始めた。

この宣教旅行はバルナバの発案によって実行に移されたが、ここからはパウロが中心になって宣教が行われている。パウロは、「イスラエルの人たち、ならびに神を畏れる方々(異教徒からユダヤ教に改宗した人々)、聞いてください」と語り始めた。彼は例によって、イスラエルの歴史から説き起こしている。格調高く、先祖の歴史を下記のように語っている。イスラエルの神は先祖を選び出し、エジプトで寄留している間に、強大なものとし、御腕をもって導き出し、出エジプトを成し遂げてくださった。神は、40年間、荒れ野で彼らの不信な行いを耐え忍び、カナンので他民族を滅ぼし、この地を相続させてくださった。その後、神は士師たちを任命し、預言者サムエルの時代を迎えた。人々は王の存立を求めたので、サウルをお与えになったが、彼を退け、ダビデを王の位に就けた。神は「私はエッセイの子ダビデを見出した。彼は私の心に適う者で、私の思うところをすべて行う」と宣言され、ダビデの子孫から、イスラエルに救い主を送ってくださると約束された。洗礼者ヨハネは、イエスが来られる前に、悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。その生涯を終えようとする時、私を何者と思っているのか。私はその方(メシア)ではない。その方は私の後から来られるが、私はその足の履物をお脱がせする値打ちもないと言い、イエス(メシア)の到来を預言した。ヨハネの預言通り、イエスにおいて、救いの言葉は私たちに送られた。ところが、エルサレムに住む人々はイエスを認めず、イエスを裁き、死刑に当たる理由は

なかったが、ローマの総督ピラトに死刑にするように求めた。こうして、預言者の言葉が実現したのである。人々は、十字架で殺されたイエスを墓に葬った。しかし、神はイエスを死者の中から復活させてくださった。ガリラヤからエルサレムに一緒に上った人々に、復活されたイエスはご自分の姿を現わされた。その人たちは今、復活したイエスに出会った証人となっている。私たち（パウロとバルナバ）も、先祖に与えられた約束の福音をあなたがたに告げている。つまり、神は、イエスを復活させて、子孫のための約束を果たしてくださったのである。詩編 2 編 7 節に「あなたは私の子/私は今日、あなたを生んだ」と書いてある通り、神の子をくださったのである。神がイエスを復活させ、朽ち果てることがないようになさったことについては、「私は、ダビデに約束した/確かな聖なるものをあなたがたに与える」と言われている。ダビデは、彼の時代に神の計画に仕えた後、眠りに就いて先祖の墓に加えられ、朽ち果てた。しかし、神が復活させたイエスは朽ち果てることがなく、永遠に生き給うことを示された。だから、このイエスによる罪の赦しが告げ知らされたことを知っていただきたい。モーセの律法では義とされ得なかったあらゆることから、解放され、信じる者は皆、主イエスによって義とされる。

パウロの説教は、イスラエルの歴史を振り返り、神の導きを確認させている。そして、ダビデに、彼の子孫から救い主を遣わすことを約束された。約束はイエスにおいて、実現し、また、イエスはエルサレム神殿当局者たちに排斥され、総督ピラトによって死刑にさせられるという預言も実現した。しかし、十字架で殺されたイエスを神は復活させ、朽ちない神の子であることを啓示された。このイエスの十字架と復活によって、罪の赦しが得られる。律法によっては義とされなかったが、イエスを信じる信仰によって、誰でも神の義をいただくことができる。律法を守ることによってではなく、イエスを信じる信仰によって義に与るという「信仰義認」は、素晴らしい解放として、会堂に集まった人々は聞いたであろう。パウロとバルナバが会堂を出る時、人々は次の安息日にも、同じ話をしてくれるように頼んだ。礼拝が終わってからも、二人は、付いて来るユダヤ人と改宗者と語り合い、神の恵みに生きるように勧めた。

次の安息日には、町中の人が集まって来た。しかし、ユダヤ人は大勢の群衆を見て、妬み、口汚く罵って、二人の宣教に反対した。二人は神の言葉はユダヤ人に語られるはずであったが、あなたがたが拒み、自らを永遠の命にふさわしくない者にしたと言い、「私は、あなたを異邦人の光とし/地の果てまで救いをもたらす者とした」と神が命じられたから、異邦人宣教に向かうと言うと、異邦人たちは喜び、信仰に入り、主の言葉はこの地方全体に広まった。

ところがユダヤ人たちは貴婦人や町の有力者たちを唆し、二人の追い出しを図った。彼らはユダヤ教を否定する信仰と聞いたからである。二人は抗議の徴に、足の埃を払い落とし、次の町イコニオンに向かった。パウロとバルナバは、ユダヤ教に改宗した異邦人に信仰が伝わったことを喜び、聖霊に満たされた。パウロは異邦人宣教に確信を得たことだろう。



パウロのアンティオキアでの説教